

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870200694		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとぴ庵神戸・石屋川		
所在地	神戸市灘区記田町1丁目3-7		
自己評価作成日	平成22年6月10日	評価結果市町村受理日	平成22年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成22年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「まちかど救急ステーション」や「こども110番」への登録、AEDの設置等により、地域のホームへの理解が深まると共に、自治会から案内を頂き、徳井神社のお祭りや、公園の清掃作業、更に、「ふれあい喫茶」等の成徳地域福祉センターでの行事に参加することによって、地域住民の方々との交流が増えてきている。近隣の喫茶店やスーパー等の利用機会も増え、散歩の機会も含め、行き交う地域の方々と日常的に挨拶を交わすことができている。ホーム内では、入居者様一人ひとりが役割を持って充実した生活を送ることができるよう、掃除、洗濯等を手伝って頂いており、他にも、歌を唱うことが好きな方が集まり、合唱サークルを設けて定期的に合唱会を行う等、楽しみを感じて頂けるような機会も多く作っている。職員にもやりがいや向上心を持って勤務してもらえるよう、各種資格取得には全面的に支援を行い、永年勤続表彰も行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地しており、地域住民にも施設の存在感が深まってきている。管理者をはじめ職員は自治会活動にも積極的に参加、地域の一員としての意識が高い。また、利用者支援においては、利用者個々の状態把握が出来ており、家族との情報交換も密であり、信頼関係も構築されている。事業所全体として、高齢者介護に対する知識や技術の習得意識も高く、研修で得た情報を反映したり、職員の意向を聴取して施設運営に生かす体制が整備されている。職員は利用者の尊厳を尊重して、希望や要望の意思表示が困難な利用者においても、日常生活の様子から汲み取りミーティングや引き継ぎで検討して支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有できるよう、毎朝の朝礼や、毎月のフロアー会議でケアの方針を確認している。また、個別にも管理者と職員で話し合い、その都度入居者様、御家族への対応を確認している。	法人の理念である「より良い介護」「感動ある介護」を目指し、朝礼や各種ミーティングで職員に周知されている。また、この理念のもとに利用者支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の散歩等の外出の際、行き交う地域住民の方々と挨拶したり、近隣の喫茶店やスーパーを入居者様と利用して、お店の方やお客さんと交流している。	閑静な住宅街に立地しており、公園や喫茶店等地域住民と交流を持つ環境に恵まれている。事業所としても地域で果たす役割を理解しており、自治会活動である公園の清掃作業にも利用者と一緒に職員が参加しに認知症高齢者の理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている地域住民の方々を通じて、認知症の方への支援方法を伝えている。また、ホームを訪れた地域の方には気軽に見学をして頂き、相談等を受け、支援方法を伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの運営報告を行っている。また参加メンバーの方から地域の様々な催しの情報を頂き、入居者様、職員が参加するようにして、地域交流を行っている。	運営推進会議の構成員は、利用者や家族の代表・地元民生委員・地域包括支援センター職員等他職種に渡ったメンバーで構成されている。他法人のグループホームの管理者を有識者として迎え、サービスの質の向上に向けた意見交換ができています。	現在、地域の代表として民生委員が構成員となっているが、自治会の代表者にも加わって貰い、地域連携を深めていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催状況や、要望・助言に対する対応方法等の結果を書面で報告して、ホームの運営状態を伝えている。また、行政が開催する各種研修にも積極的に参加して、ホームでの問題は都度相談し、問題解決に取り組んでいる。	市町村との連携については、定期的な施設運営の書面報告や通知・通達文書などによる情報の提供のやり取りを含め、問題が起これば解決に向けての相談が出来る関係が構築されている。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修への参加や、ホーム内部でも研修を実施して、職員が基本的知識を学ぶことができるようにしている。また、その内容を周知徹底できるように、毎月フロアー会議等で確認を行っている。	身体を拘束することで、利用者に及ぼす悪影響を職員研修会で周知し、利用者支援の実践につなげている。また、外部研修に関する情報の提供もされており、参加した職員は施設内で報告する機会を作り、情報の共有も行われている。	「ホームで暮らす 我が家」として、地域に開かれたホーム作りに向け、更なる取り組みを期待する。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修には積極的に参加するようにして、また、ホーム内でも同様のテーマを議題とし、その対応を、毎月フロアー会議等で確認している。	高齢者虐待に関する5つの行為についての基礎研修会を施設内で開き、理解度をレポート提出で確認している。また、虐待防止関連法の学びを通して人権意識の向上にも繋げている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、実際の事例を紹介するなどして、基本的知識を職員に身に付けてもらっている。御家族から相談があれば、よく話し合って、その必要性などを確認するようにしている。	権利擁護に関する制度の理解については、利用者の中に、成年後見人制度を活用している利用者もあり、具体的な事例を通して学習するとともに日常生活支援に繋げている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事前によく話し合いを行い、不安や疑問点を解消するようにしている。また、改定等の際は、家族会や運営推進会議において協議し、承認を得ることによって、理解、納得して頂いている。	契約に関する説明は、ホーム長が行い、利用料金や支援の方針、退居にかかわる事項や退居後の支援も含め詳細に説明を行っている。また、契約書等に記載のない事項についても、書面で説明し了承を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた際は、管理者、職員が声を掛け、直接話し合うように心掛けている。また、「ご意見箱」を設置し、意見を聞き取れるようにしている。	家族会を、年に1回開催し、施設の運営方針や改正事項を説明する機会としている。また、意見箱を設置し意見を求めることに加えて、職員が積極的にご家族に話しかけ、気軽に話せる関係作りにも努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロアー会議の他、食事、レクリエーション、危険防止委員会を実施して、職員の意見や提案を運営に反映できるように取り組んでいる。また、個別に管理者と職員が話し合い、個々の意見の反映に努めている。	管理者が施設運営に関する職員からの意見をフロアー会議や委員会を通して積極的に「聴く」姿勢を持っている。また、管理者と職員の間関係の大切さを認識し、個別にヒアリングする機会を設け、意見の反映に努めている。	より自由に意見が出せる手段として、職員アンケート等の検討が望まれる。

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給や、各種資格手当を設け、向上心を持って働けるようにしている。また勤続年数に応じて、永年勤続表彰を行って、やりがいを感じながら勤務できるようにしている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、交通費、参加費を全て会社が負担し、更に公的資格取得の支援も行っている。ホーム内でも研修を行いながら、実際のケアの現場で、対応方法や、介護の技術面をその都度指導するようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	灘区内でグループホーム連絡会を設置し、各ホームの職員が情報交換できる場を設けている。そこで、勉強会や見学会を開催するようにして、ネットワーク作りに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談を通して、不安や、要望等をしっかりと聞き取るようにしている。必要に応じて、繰り返し面談を行ったり、実際にホームに見学に来て頂くなどして、ご本人との関係作りに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂いた際や、ご自宅を訪問させて頂いた際に、不安や要望等を聞き取るようにして、ホームでの生活を始めるにあたって、どのような点に注意してケアを行っていくか、しっかり確認している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族との話し合いを繰り返すことにより、事前のアセスメントを行っている。それにより現状を把握し、支援として可能なものを見極め、実際のケアに活かすようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で共に暮らす者としての意識を持つよう常に心掛けている。その考えは、運営理念のひとつでもあり、毎月のフロアー会議等で、全職員が統一した意識として持てるよう、確認を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と御家族との関係には、常に気を配るようにして、お互いが不安に感じているようなことを解消するため、特に御家族とはこまめに話し合うようにしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、例えば喫茶店や美容院などには、ご本人が通い続けることができるよう、外出の支援を行っている。また、御家族とも協力してご本人の「行きたい場所」を把握し、支援している。	施設利用前に、よく通っていた喫茶店や美容院、公園など顔なじみの方との交流が出来るように定期的な外出を計画的に実施している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係に配慮し、必要に応じて職員がその間を取り持つようにして、共用の場である談話室での過ごし方の支援を行っており、その支援の方法については、毎月のフロアー会議等で確認を行っている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居された後も、ご本人の入院先にお見舞いに行ったり、ご本人の状態を確認して、御家族からの相談を受けたりしている。不安を感じられないよう、医療機関や、他施設の相談員の方と連携を取って、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向は、日頃のケアの中で常に把握するようしており、その対応方法については、毎日の申し送りや、毎月のフロアー会議において、じっくりと協議している。必要に応じて臨時のミーティングも行っている。	職員は希望や要望の意思表示が困難な利用者においても、日常生活の様子から汲み取りミーティングや引き継ぎで検討して支援につなげている。利用者の状態の変化に応じて臨時ミーティングを開き、迅速な対応が取れるような体制が整備されている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談や、御家族との話し合いにおいて、これまでの生活歴を把握するよう努めており、実際にご入居された後も、御家族から情報をよく聞き取るようにして、実際のケアに活かすようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様それぞれの、毎日の過ごした方は、介護記録に記録として残しており、その日々の状態や変化を把握できるように努めている。また、申し送りノートを活用しながら情報の共有に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスやモニタリングにおいてご本人の「その時」の状態に応じたケアを実践できるように努めており、3ヶ月毎にケアプランの見直しを行って、御家族ともその内容について確認を行っている。	3ヶ月ごとのプランの見直しを実施し、状態や症状の変化、日常生活での様子を含め介護計画の見直しを行い、介護支援の変更点をご家族に説明して理解を求めている。	個別サービスの実践にあたって、身体・精神・日常等の様子が把握できる利用者把握シートを作成し、介護計画作成の基礎資料として職員が共有することが望ましい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、申し送りノートを活用して情報の共有に努めている。またその内容については、毎月のケアカンファレンスで協議し、モニタリングを通じてケアプランの見直しに活かすようにしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族のニーズに応えるため、直接話し合う場をその都度設けるよう心掛けている。可能な限り、そのニーズに応えるため職員は柔軟に対応して、入居者様、御家族に満足していただけるように努めている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の喫茶店やスーパー、公園などの地域資源を活かして、ご本人が充実感を得ることができるよう支援している。また、外出の際の安全面への配慮は、最優先で行っている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の往診が行われており、そこで入居者様の状態のこまめな確認を行い、相談や情報交換ができる関係作りをしている。また、希望の医療機関があれば、通院、受診の支援を行っている。	定期的に主治医の往診があり、利用者の健康管理がされている。また、入所前からのなじみの医者への受診については家族の協力を得ながら、職員の出来る範囲で関係を切らないように努力している。歯科医・皮膚科においても希望者には往診医の協力体制が確保されている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に往診に来る主治医や看護師と、情報交換を行い、入居者様が適切な処置を受けられるよう早期に相談を行っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へは、こまめにお見舞いに行かせて頂き、入居者様の状態の確認に努めている。また、ご本人、御家族が入院中に不安を感じられることがないよう、病院の相談員とも連携を取りながら、情報交換や相談に努めている。	入退院の情報の共有については、介護(看護)サマリを中心に情報を共有している。また、入院時の医師からの状況説明は職員が家族とともに説明を受け、利用者支援の今後の方針を一緒に検討している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に、重度化や終末期の対応については、よく話し合い、事業所としての方針を説明している。また、入居者様の状態に応じて、ご本人、御家族の要望や思いを聞く機会を多く設けるようにしている。	重度化や終末期の対応について、施設利用時に介護方針を説明して、文章において確認を得ている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、職員が周知徹底できるよう定期的に確認しており、各フロアの詰所内にチャート表を貼り付ける等して、実際の場面で冷静に対応できるよう取り組んでいる。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を含めた、消防避難訓練を年2回実施している。また、自然災害時の対応方法のマニュアルの作成、研修の実施を行い、危機管理意識の向上に努めている。また、地域の消防訓練の参加を行っている。	自衛消防訓練届出書を、消防署に提出して訓練を実施し連携を図っている。訓練計画には、夜間を想定した訓練も盛り込まれた内容となっている。近隣住民参加の消防訓練も行われている。また、消防署の防火査察を受け、建物の良好な管理がされていると評価を受けている。	今後も、地域の防災活動への参加や自治防災組織との連携を蜜にすることで、利用者の安全な暮らしの充実に向けた地域ネットワークの強化に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重や、誇りやプライバシーを損ねない対応は、ホームの運営理念に具体的に掲げており、その重要性を職員全員が理解できるようにしている。また、日々の申し送りや、毎月のフロア会議において、その対応方法を確認するようにしている。	「人格の尊重」や「プライバシーの確保」された利用者支援に必要な対人援助について、ミーティング等で職員教育を実践し、具体的には入浴・排泄・移動移乗等の実際の場面での適正な言葉掛けを意識した支援を行っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様、一人ひとりのかかわりを重視し、ゆっくりとしたペースの対応を心掛け、ご本人の意思決定を尊重するようにしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のスケジュールは決めてあるが、そのスケジュールに固執することなく、職員が臨機応変に対応して、入居者様の希望に沿って過ごすことを心掛けて支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その人らしさ」を細かく感じ取ることに気を付け、服装を選ぶことを支援したり、おしゃれを楽しむことができるように、アクセサリなどを着用して頂くことにも配慮している。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みやリクエストにお応えできるよう、定期的に食事会を開催し、毎月の食事委員会でその内容を協議、確認している。入居者様には、調理や片付けに積極的に参加してもらい、楽しい食事となるよう心掛けている。	利用者の意向を反映するために、献立の変更や独自の行事食を計画するなどバラエティに富んだものになっている。	食事を食べる喜びに加え、一緒に作る達成感や残存機能を活用して食事を楽しむ機会を更に増やしていく取り組みを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日チェック表で確認できるようにしており、また、その変化に応じて対応できるよう、申し送りやフロア会議で、こまめに入居者様の状態を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に応じて、使用する道具を工夫し、口腔内の清潔保持に努めている。また、そのケアを怠らないよう、「口腔ケアチェック表」で確認している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の記録は、日々の介護記録に記入し、必要に応じて個別に排泄表を用意して、排泄パターンをチェックしている。入居者様のこれまでの習慣や、わずかな様子の変化を把握するようにして、それぞれに合った支援を行っている。	排泄に関する個人のパターンや排泄チェック表の情報から状態を把握し、オムツをつけないケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して、排泄パターンを把握できるようにしている。便秘しやすい入居者様には個別に対応方法を検討して、その予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、特に曜日や時間を設けず、できるだけご本人の希望やペースに合わせて入浴できるよう支援している。一人ずつ、ゆっくりとくつろいだ時間を過ごせるような対応を心掛けている。	毎日入浴できる体制を作り、職員サイドで入浴回数を設定せずに、利用者の希望に沿った入浴が出来るように支援を行っている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻を明確に取り決めるのではなく、入居者様の生活リズムや、その日の様子に応じて、安心して入眠して頂けるよう支援している。また、日中に関しても、必要に応じて、居室内で休んで頂けるように支援を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の管理については、一人ずつ名前を明記して細心の注意を払って管理している。また、お薬の一覧表を個別のファイルで管理し、用法や副作用をすぐに確認できるようにしている。服薬して頂く際は、投薬チェック表を用いて管理している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯など、生活の中で入居者様が役割を持って頂けるよう支援している。また、レクリエーション委員会を中心に、毎月合唱会などの行事を開催し、楽しみを感じながら過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調や天候には十分注意しながら、散歩等で日常的に外出ができるよう心掛けている。また、御家族と一緒に外出したり、ホームの車を利用して、少し離れた場所へも出掛けることができるよう支援している。	外出の支援の対応として、1対1の対応での散歩や散策に加えて、小グループで「山や海」へのドライブも行っている。また、日常生活での消耗品等の購入についてもその要望が出たときに即応できる様の努めている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理方法については、事前に御家族としっかりと確認をして、ご本人が混乱されないよう配慮している。また、必要に応じて「お小遣い帳」をつけて支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの要望があれば、その都度対応させて頂いている。事前に御家族とも確認を取って、電話や手紙のやり取りで混乱が起きないよう配慮している。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には、日付や時間が見て取れるような見やすいものを設置し、生活感や、季節感を感じて頂けるような飾り付けを心掛けている。	各フロアごとの個性を生かした共用スペースとなっている。利用者の身体機能を考慮した家具やソファ等の配置が成されている。更に、テレビの前のコーナーにソファを置き、一人または少数でゆっくりとくつろげる場所が設けられている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である談話室の、テーブルの配置やソファの配置は、それぞれのフロアで入居者様に合わせて工夫している。また、その中でも、独りで過ごせるような空間を設けて、快適に過ごせるようにしている。	/	/
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、馴染みの品物を居室に置いて頂き、安全面にも配慮してレイアウトを考えるようにしている。特に記念の写真などを居室内に飾り、思い出を大切にしてもらうようにしている。	利用者の思いを反映した居室作りに向けて、個々に仏壇や思い出の写真、こだわりの飾りつけ等個性豊かな環境が整備されており、精神的に落ち着ける環境づくりに取り組んでいる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	さりげなく案内表示を掲示する等して、入居者様が混乱されることなく生活が送れるよう工夫し、職員は鍵を掛けることの意味を理解し、安全面にも細心の注意を払っている。	/	/